



大規模国際競技大会の運営 —コモンウェルスゲームズ 2018 ゴールドコースト大会—

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所 所長補佐 成田 静香 (和歌山県派遣)、
藤島 穰 (青森県派遣)、渡邊 雄太 (総務省派遣)

コモンウェルスゲームズ

コモンウェルスゲームズ (以下「CG」という) は、英連邦に属する 71 の国や地域が参加し、4 年ごとに開催される総合競技大会です。イギリスのロンドンに本部を置く CG 連盟が主催しています。競技種目には、陸上競技、体操、水泳などのほか、ローンボウルズやネットボールといった英連邦に特徴的な競技も含まれています。

日本では、2019 年にラグビーワールドカップ、2020 年に東京オリンピック・パラリンピック、2021 年にワールドマスターズゲームズ関西大会と、大規模な国際競技大会が控えています。そこで、これらの大会に向けて準備を進める自治体の参考となる情報を収集するため、2018 年 4 月 4 日から 15 日まで豪州クイーンズランド州で開催された CG2018 ゴールドコースト大会を調査しました。本稿では、競技会場の選定、ボランティアおよび大会関連のイベントについて報告します。

競技会場の選定

大規模な国際競技大会を開催する場合、競技会場の選定が大きな課題となります。既存施設の利用、また必要に応じて会場の新設、仮設会場の設置で対応することになりますが、今大会の開催に当たっては、効率的な大会運営という観点から、既存施設の利用が重視されました。大会のマスタープランにおいても、輸送手段、レガシー、開催地の課題解決に資する開発計画、大会後の選手村の住宅としての供給、開催地の観光地としての魅力の訴求、極力近接した地域での競技会場の設置と並び、当該プランの 7 つの柱の 1 つとして、既存施設の利用が挙げられています。

また、国際競技大会においては、競技ごとの国際競技連盟が、会場施設が充たすべき要件を定めています。CG においては、CG 連盟が、試合会場が充たすべき要件を定めており、要件を充たさない既存の施設を利用する場合は、アップグレードをする必要があります。



CG2018 ゴールドコースト大会のパナー



卓球の試合会場。映画の撮影所を大会期間中は競技会場として使用。大会終了後は観客席などを撤去し、元の施設に戻す。



競技会場の入口付近の手荷物検査を行う仮施設

さらに、施設をそのまま利用するのではなく、フェンスやゲート、テントなどさまざまな仮設物を設置して、施設を大会仕様にする必要があります。これらの仮設物はオーバーレイ（Overlay）と総称されています。既存の施設に仮設の観客席を設置するといったオーバーレイは、大会開催にかかるコストに大きく関係することから、綿密な計画が必要になります。

会場の設置計画を策定するにあたり、大会後の利用方法や地域に与える影響、いわゆるレガシーについても考慮することが求められます。初期の段階（2009～2011年）では、既存施設の所在地および状態、将来の屋内競技会場の需要の予測、スポーツやイベントに対する需要の見通しといった情報を示したうえで開催都市として立候補し、数年にわたる誘致活動の末、2011年11月12日のCG総会で投票により開催都市に選ばれました。中期（2012～2016年）には、施設そのものだけでなく、周辺地区の整備の検討、一時的な施設で済



クーランガッタのビーチバレーボール会場

ませるのか恒久的な施設にするのかといったような、具体的な計画策定およびその実施が進められました。後期（2016～2018年）は、整備した会場を利用し、プロモーションする段階と位置づけられ、大会前後の魅力のあるイベントでの会場の利用促進や会場の利用によるプロモーション、国内外のスポーツチームのキャンプ誘致、会場の持つ利点や影響力の測定などが行われました。

今大会では、CG史上初めてビーチバレーボールが採用されました。ゴールドコースト市は豪州を代表するビーチリゾート地であり、同競技の会場は屈指のサーフィンスポットであるクーランガッタに設置されました。まさに、開催地の観光地としての魅力を訴求するという目的を具現化したものといえます。

ボランティアスタッフの活躍

本大会では、多くのボランティアスタッフが大会の運営に携わっていました。大会運営にあたり雇用されたスタッフは約2,000人、セキュリティや防犯にかかる業務委託を受けた事業者などのスタッフは約4万5,000人でしたが、それに加え、ボランティアスタッフとして約1万5,000人が大会運営に参加しました。大会期間中、ゴールドコースト市内外のさまざまな場所を訪問しましたが、会場の中及び周辺だけではなく市街地においても多くのボランティアスタッフを見かけました。

本大会では、2017年2月にボランティアへの参加申込が開始されましたが、募集人数を大きく超える約4万7,000人もの応募があり、その中から約1万5,000人が採用されました。

オーストラリアでは、2000年シドニーオリンピッ



大会運営事務局と一緒に働くボランティアスタッフ

ク・パラリンピック大会から国際競技大会でのボランティアスタッフの活用が始まりました。同大会では、ボランティアスタッフとして約5万5,000人が動員され、大会ボランティアの経験を通じて、ボランティア参加が楽しく、充実したものであるというイメージを作り出し、ボランティア参加への気運向上の契機となりました（詳細については、当協会のHPで公開しているクリアレポート「オーストラリアの大規模イベントにおけるボランティアの活用」を御参照下さい）。

ボランティアスタッフには大会運営に従事してもらうために次のような配慮がなされています。

- ・大会期間前後（3月25日から4月18日まで）の試合会場となった都市の公共交通を無料で利用可能
- ・業務中の食事の提供（大会期間中合計で15万食を準備）
- ・従事した競技のチケット（1回観戦分）取得可能
- ・勤務の最終日に記念品を贈呈 など

また、現場で業務に従事するスタッフは、ボランティア、それ以外のスタッフに関係なく、皆同じユニフォームを着用していました。このことは、現場における一体感を与えるだけでなく、コストの削減にもつなが



ているという説明がありました。ボランティアスタッフの一人に取材したところ、自身で準備したのは、大会事務局から着用を推奨された「白い靴」だけとのことでした。

大会関連イベント

CGの試合会場となった各都市では、大会開催期間中にさまざまなイベントが開催されました。これらのイベントは、競技を観戦するため各都市を訪問した多くの人々に、大会を楽しんでもらうだけでなく、各都市の伝統文化や歴史などについて知ってもらう貴重な機会として、カウンシルの職員やボランティアなどによって運営が行われていました。特設ステージでのライブ演奏、来場者参加型のアトラクション、子供向けの工作アク



イベントやパブリックビューイングのためビーチに設置された特設ステージ



ビーチでのイベントの様子



CG2018 ゴールドコースト大会閉会式

ティビティ、地元アーティストによるアートパフォーマンスなど、幅広い分野のイベントが連日開催され、各競技で興奮冷めやらぬ開催地の雰囲気をもり一層盛り上げていました。

今回の調査結果は、後日クリアレポートとして公表する予定です。